薔薇

NO. 14

自画像　ゴヤ　1771頃

編輯後記

先づこれで薔薇の第一期をすました事になる。ここで気持の上の小決算をすませて愈々意義深き第二期に入る事とする。物事に一つのセクションを作り一段階づつ進んで行くのはよい事だと思ふ。さうでないと、どうも人間はズルズルベッタリになりやすい。ふりかへつて見ると大した仕事もやつてゐないが、決して退歩でなかつた事を自覚する。自慢にはならないが、発足当時の事を思ひ見るがよい。世の中は百千人、目明千人、必ず視てゐる人は見てゐるのである。

そこで今度第二期に入るを機とし薔薇の主張として現代浪漫調を提唱することにした。理由は実に簡単である。それは薔薇短歌の大勢はどう見ても写実主義でないからである。リアリズムでないとすればその正確なアントムは浪漫であるからである。中途半端な造と以てして窮屈な思ひはしたくない。もとより私は浅学非力であるから、これから層一勉強して立派な薔薇としての定説を樹てたく思つてゐる。これには大方の助力提携も願つておく。

今月は浪漫詩人田中克巳氏から美しい作品を頂いた。私はその詩を読んで涙が出た。私は兵隊になつた事はないが、兵役の経験がある人なら、一層痛烈だらう。だから私の涙は嘘かも知れない。しかしそれは一種のロマンの涙とも言へるだらう。文学を見てほんとうに涙など流せるものではない。それを涙と謳ひ涙と思ひ歌ふ心がロマンである。この簡単が私の人間としての抒情である。尙田中氏の近著ハイネ恋愛詩集(角川文庫)は好評である。

御覧の通り須田剋太画伯から立派な近作をたくさん頂いて飾ることが出来た。諸君と共に喜びに堪えない。同氏は本年度の国際美術展に力作を出品され誠に評判であつた。記して両氏に厚く御礼申します。

今月の出詠歌は中々盛況であつた。願くは次号も一層発奮してほしいものである。文章の方も迫々充実して来た事は喜ばしい。載せきれなく薔薇通信に廻したものも二三あつた

七月は西宮で歌会の代りに座談会を催したが、会員外よりも数氏参加され中々の盛会であつた。これは薔薇の地歩が漸く確立されて来た事を示すものである。

次号原稿締切は九月五日としたが厳守してもらひたい。会費の方も集りが悪く困つてゐるからよろしく御願ひする。

目下酷暑三伏の候諸君の御健康を祈る。

—村上新太郎—

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で毎月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する

○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添へて発行所へ申込の事

○会費はA会員一ヶ月一〇〇円(三月以前納上)
　B会員一ヶ月　五〇円(四月以前納上)

○詠草　A会員(二十首)
　B会員(十　首)

○原稿締切　毎月五日

○添削・一回十首以内　添削料五〇円
宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

短歌雑誌　薔　薇　通巻第十四号
昭和廿八年八月二十五日発行
一部　五十円(送料別)
編集兼発行人　西宮市北口町五七　村上新太郎
印刷所　大阪広告株式会社印刷部
発行所　西宮市北口町五十七番地　薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

商人の娘の歌一首

村上新太郎

先日、西保恵以子さんから「廿一歳」と言ふ藹たき歌集を賜つた。田中克巳氏の序文を読んで、指を繰つて見るとまだ廿二三才、始めの方のチェックした歌を一首しるして見る。

川に浮くネオンの街の商人の娘と生れきしかなしみをもつ

そして私はこの歌をもう一度

かはにうくネオンのまちのあきひとのことうまれきしかなしみをもつ

と仮名書きにしてみた。歌筋がシッカリ透つてゐる。歌はやはりシンナリした中にもシッカリしたすがたが一本通つてゐなければいけない。この歌何処となく情の細やかさがあつて人の心を温める。晶子の少女時代はどんなだつたらうかと一寸事大に考へても見る、もしもこの人が奈良か天平の御宇に居たら、商人の娘の歌一首として万葉に召されてゐたかも知れない、などと私の夢を発展さす。私はこの集を何の苦もなく素通りした。そしていさゝか甘い感傷を感じた。恰も一日節煙して煙草を喫つた時の様に。私の年齢ももう更けてゐる。芸術する心には年齢はない、などとは思つてゐても九十%以上は負けてゐる。集の歌を読んでゆくと、利玄を感じ、晶子を感じ、啄木を感じ、ささめ雪を感じた。それが私に淡い郷愁を与へたのだ。それは摸倣であつてもかまはない、和泉式部でも式子内親王でも赤染衛門でも何でもまねて見るがよい。自分の身について行けばよいのだ。それが西保さんのスタイルとなる。だが器用は中絶しやすい、そんな事のない様に、悪い歌にも染まぬ様にいつまでも燃えてゐてほしいと思つた。

さからはず従ふ日々よわが性にたのむ強さも崩れゆくらし

白がすり着て来し君と夜祭りの賑ひはずれし道に逢ひたり

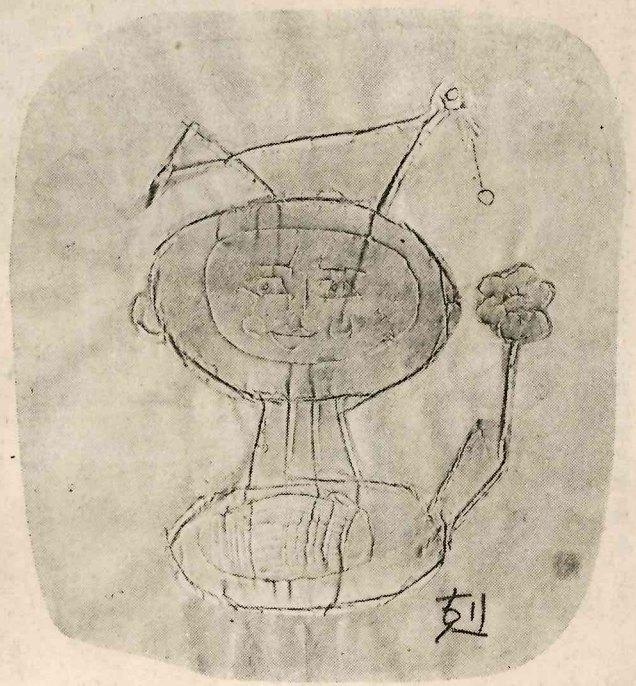
遠き日の何につながる思ひ出か巻貝一つにぶき光もつ

わが思慕のなかにまもられゐる人のけがさるるなきふかき瞳よ

そむきたる吾をにくしむことのなきやさし人をときにあはれむ

薔薇（第十四号）目次

商人の娘の歌一首……村上新太郎……1
夏……田中克己……2
ロマン序説……村上新太郎……3
作品……5
書評……10
「女人秘抄」……松村衣栄
「エスプリの花」……西本宗秋
房総日記……生田房子……13
薔薇抄……15
誓子……平井一雄……17
歌誌渉猟(三)……奥道裕彦……19
作品……22
薔薇五人短評……内田八千代……26
薔薇合評(第十四回)……28
編集後記……31
扉・カット・須田剋太



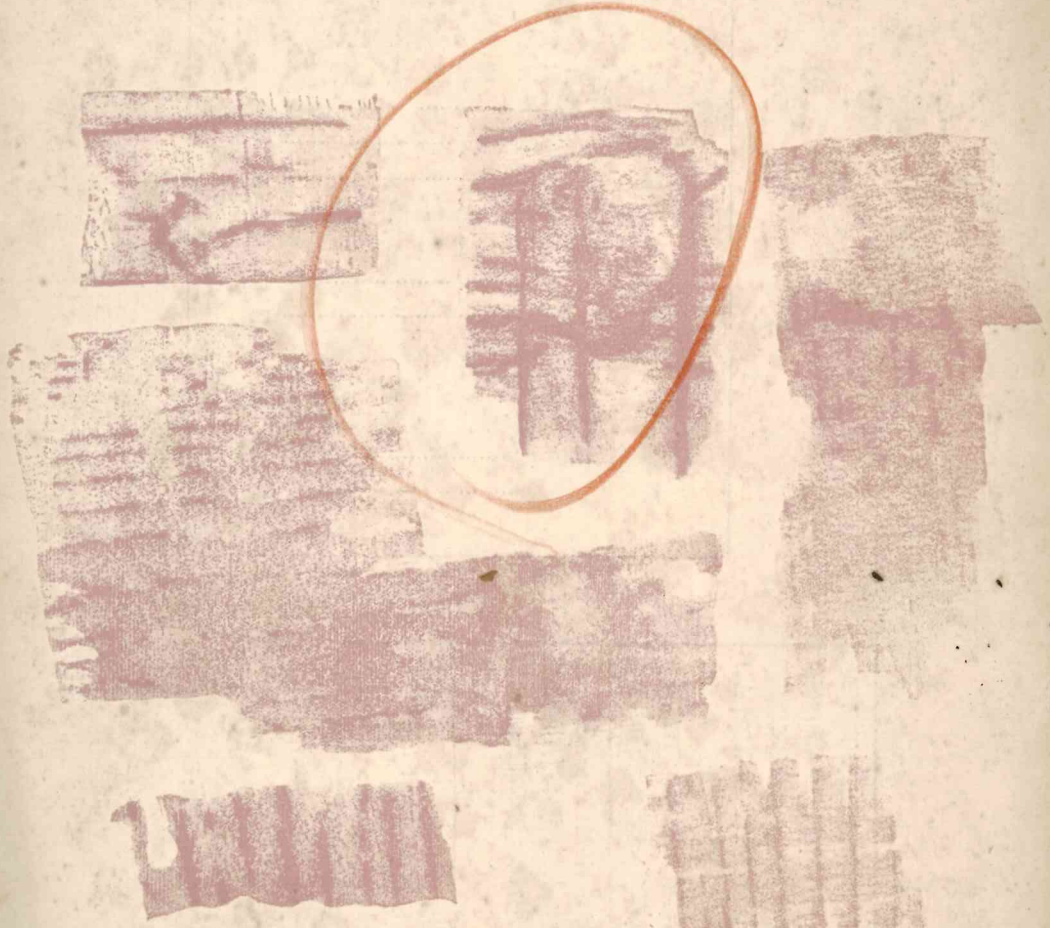
夏

田中克巳

また夏が来た
この気候で私は思ひ出すのだ
華氏百二十度の華北の兵舎の生活を
しかし苦しかつたのは暑さのせいではない
気候が乾燥してゐる上、兵隊の私は上半身裸
を許されてゐた
苦しさを与へたのは人間だ
上等兵、兵長、伍長、軍曹、少尉
みな一様に私に敬礼をさせ
さうしてみな一様に私を打つのだつた
私は男なので打たれることなぞこはくないし
また打たれたつてさう痛くないのだ
しかしかく厳格なしつけをする軍隊がありな
がら
いたるところの島々では玉砕しつづけてゐた
それが私の皮膚にヒリヒリとひびいて痛んだ

薔薇

No. 24



後記

此頃各結社雑誌の誌齢が百号に達するものがかなり出て来た。戦後十年余、即ち終戦後ただちに創刊して今日に至ればその様なことになる。先日芦間恵文に会つた時、『君の方は今何号だ』と問はれて『二十三号』と言つたら『では百号記念会には間に合ふね』と言はれた。間に合ふと言ふことは生きてゐられると言ふことであるらしい。しかし彼は薔薇が月刊でキチンキチンと出てゐることだと思ふから、さう言つたのだが、考へて見るとあと七十なにがし冊の雑誌を出すのに、このまだと悠に二十年はかかる、さうすると今年五十五才の私が七十なにがしになる。そこで一寸わけの判らぬ気持で暗然とした。

常に口では「人生はマラソン競争みたいなものだ」と言つて悠然とかまへてみることもあるが、一歩々々、この日一日を積み重ねて行くべきものである。否一時間たりとも生きてゐるものの尊厳を犯してはならないと思ふ。かくしてわが薔薇が五十冊ではどれ程の充積を持つか、又遙かなる百冊目では如何なる歴史的偉業を達成するか、考へれば苦しく想へば愉しい限りだが、芸術する不敵の執念をあくまでも忘れてはならない

今月号もまた神戸の印刷所から大阪の印刷所への変更で予定日が遅れてしまつた。次号から隔月刊定時にもどるから安心してほしい。

五月は京都の鎌田、古川両氏の努力でいにしへの匂ひゆかしい葵祭を見、洛北大徳寺の各塔頭を訪れ、小国師居住の来光寺で歌会を開きまことに愉快な一日をすごした。秋には又意義あるところへ吟行したいと思ふからよきプランを持つてゐる人は早く知らせて下さい。

尚次号の原稿は本誌を受取られたら至急送られん事を室む、休詠した時の雑誌は実に寂しいものですからネ。（村上）

× × × ×

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する

○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添へて発行所へ申込の事

○会費は　一ケ月　一〇〇円（三月以上前納）

○長期療養者並に学生にして申出であれば半額とする

○詠　草　二十首以内　原稿紙使用のこと

○原稿締切　毎月五日

○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円

宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

短歌雑誌　薔　薇　通巻第二十四号

昭和三十年七月一日発行

一部　特価八十円（送料八円）

編集兼発行人　西宮市北口町五七　村上新太郎

印刷所　同盟印刷有限会社

西宮市北口町五十七番地

発行所　薔薇短歌会

振替大阪三六四〇六番

目　次

詩人の親子……田中克己 1
七人集……2
内田八千代・宮　芳雄
森　ふさ子・今岡千鶴子
筑紫　夏子・岸間　光子
石本　照子
歌誌渉猟……奥道裕彦 6
作品（1）……8
書評……13
平井　一雄・岸間　光子
古川　房枝
作品（2）……18
薔薇合評……23
吉見　芳子・池田　重司
今岡千鶴子・山崎秀二郎
能勢みどり・村上新太郎
選後寸評(1)……村上新太郎 27
後記……28

塚木邦雄
第二歌集
装飾樂句
Cadenza
B6 版 本中
洒 約
瀟 予 ¥100
送 16

内容
聖金曜日・向日葵群島・黙示・装飾楽句
流刑歌章・霊歌・收斂歌章
以上七聯各三十首

燦然たる野心の結晶！短歌の未来史の第一頁はこの比類なき煌きを以て創まる。暗緑色の《今日》のためにつづられた詞華のカデンツア。《水葬物語》の作家が再び世に問ふ鮮烈なる近代短歌の一頂点。
東京都千代田区代官町二　作品社刊

薔薇

第二十四号

詩人の親子

田中克己

けふはサラリーマンはみな親子づれで
子供はくたくたになりながらも
明日の朝はたのしく目をさますだらう
親たちの平凡なくつたくのない顔
僕は平凡でなくこの日もひとりで
詩のテーマを見つけに歩き廻つてゐる
帰れば子依たちはもう寝てゐる
どこへも出ないで家にゐたさうだ
明日は学校で子供の日の作文を書かされるさうだ。

から今朝へと時の推移がありありと感じられ、作者の心の繰り言を聞く様である。演技性のない斯様な歌も見すごさない様にしたい。

○

ネオンの街に住みつき田舎などへ帰へらぬと言ふ娘のルージュが赤い　辛島さなみ

一読鮮明な歌である。結句「ルージュが赤い」は生々しく嫌な感じを与へるが、却つて効果的とも言へる。

○

臨月の妻はこまごま家事のことメモに残して今日入院す　出海　勇

風鈴の鳴りて閑けきこの部屋に動きは速し玻璃の金魚は　同　人

この二首を連作として味ふ時、鮮明に作者の動静がうかがへる。そして後者に於て一層明確に心象の動きを感じることが出来る。連作の効用。

―後　記―

「短歌は亡んでしまつたんですか」と言つて鳥取県の野口玲子さんがはるばる私のところへやつて来た。別にその事を尋ねるために私を訪れたのでもないが「ホントウにびつくりしました」と驚異の瞳を見張つたのは近頃実に新鮮に感じられた。「短歌」八月号の滅亡論を見たためである。これだけでもあの滅亡論の特輯は十分効果があつたのである。私などこの滅亡論に限らず既に食傷し麻痺してゐると思ふ。何故もつと純粋に驚けないのだらうか、それを私はかなしくも寂しくも思ふ。こう考へるとどうもすべての事に対して今の人間は驚愕の神経なり精神が摩滅してゐると思へる。又実際は少々の事で驚いてゐたんでは命が二つあつても三つあつても足りないだらう。しかし精神の純粋さはここでどうしても取りもどさねばならないハメにある。

×

言ひ遅れましたがこのたびの私の病気に対しては各方面から懇篤なる御見舞に預り厚く御礼申します。又お約束の作品も出来ず御迷惑をかけてすみません、どうやら回復に近づきましたから御安心下さい。一々御礼状を差し上げる筈ですが取り敢へず本欄をかりて御礼申します。

×

それで次号は少々うすくとも集つた原稿ですぐ編輯にかかりたいと思ひますから至急に詠草を送つて下さい。こんな時代ですから不敵な浪漫精神を一層高く掲げて短歌の永遠を飽迄も試してゆきたいと思ひます。（村上）

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する

○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添へて発行所へ申込の事

○会費は　一ケ月　一〇〇円（三月以上前納）

○長期療養者並に学生にして申出であれば半額とする

○詠　草　二十首以内　原稿紙使用のこと

○原稿締切　毎月五日

○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円

宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

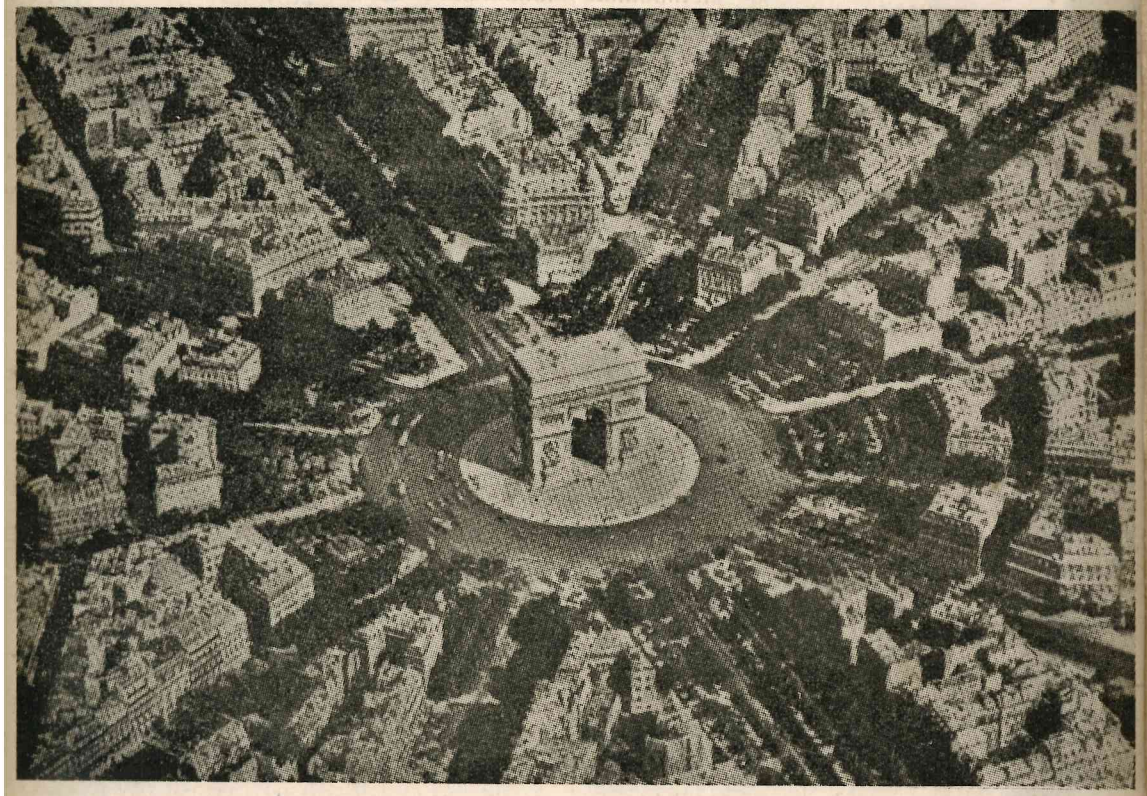
短歌雑誌　薔　薇　通巻第二十五号
昭和三十年九月一日発行
一部　特価八十円（送料八円）
編集兼発行人　西宮市北口町五七　村上新太郎
印刷所　同盟印刷有限会社
西宮市北口町五十七番地
発行所　薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

薔薇

9

No. 25

いつの日か思ひ送ぐべし冷ゆる日も青き果肉のにほひはげしき　岸間光子　24號より



発行所・薔薇短歌会

薔　薇

第二十五号

夏

田中克巳

南の島から一人の少女が
バナナを一房おみやげに持つて来た
摂氏三十五度の気候とバナナの房とが
僕にいろいろのことを思ひ出さす
昭和十七年には僕はまだ若かつたので
そのころおぼえたことを忘れないのだ
ブーゲンヴイレア、猩々木、みな赤い花だつた
――まもなく僕の晩年が来る
灰色の枯木の中で僕は思ひ出のアルバムを伏せよう。

目　次

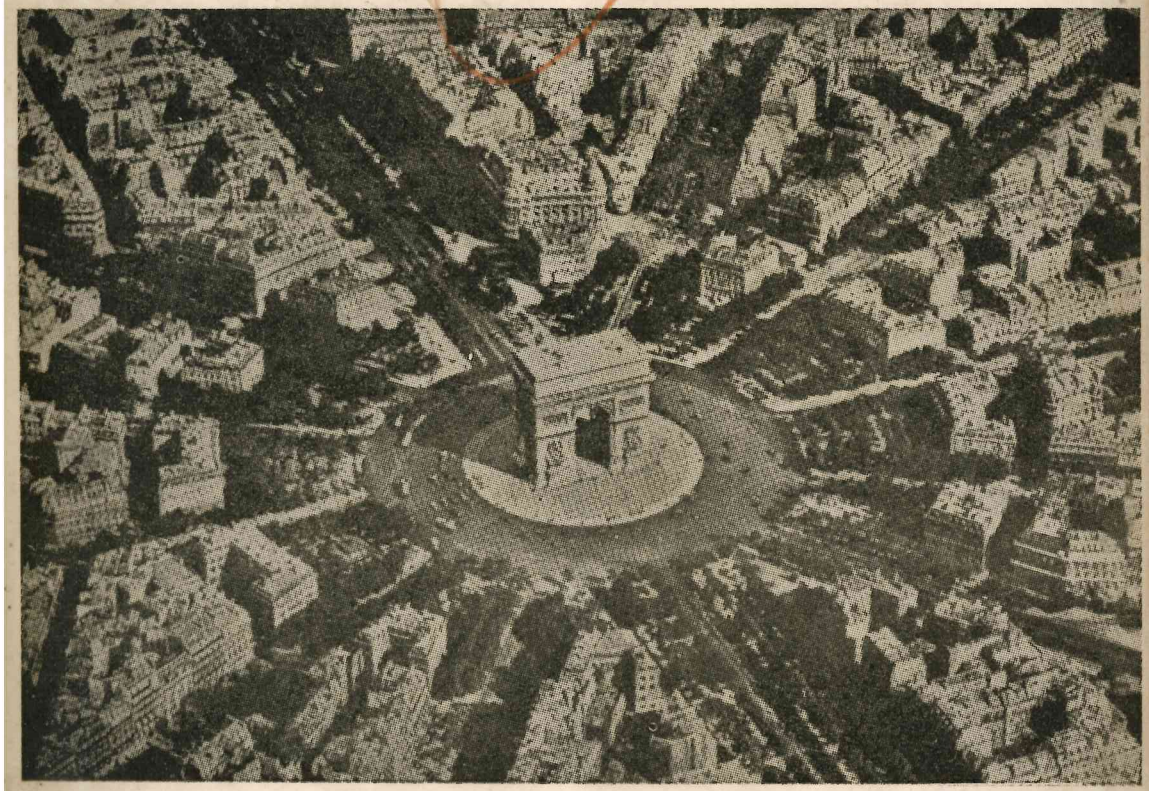
夏……田中　克己…1
七人集……2
奥道　裕彦・長谷川抱星
山崎秀二郎・森田　常胤
稲継　一子・梅村とみ子
平井　一雄
歌誌渉猟……奥道　裕彦…6
作　品(1)……8
曝　涼……平井　一雄…13
作　品(2)……15
薔薇合評……21
前田千栄子・小原　光子
豊岡　香葉・平井　一雄
松村　衣栄・村上新太郎
歌集紹介……24
選後寸評……村上新太郎…25
後　記……26
カット……須田剋太・津高和一

朝日文化手帳
生活のこだま
山田あき・信夫澄子著
―歌にみる戦後十年の女―
歌を作らない人々にもこの輯は興味と意義を与へる。まして歌を作る婦人は深く感じるものがあらう。薔薇からは、能勢みどり、大橋梅乃、杉江宣子、斎藤芳子、下村敏子、天羽よしの、高松洋子氏等の歌が引例されてゐる　（朝日新聞社刊）
¥ 100
送 16

薔薇

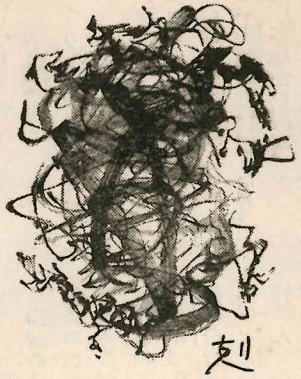
生きること皆うつくしと誰か言ふ汚みにくしと
誰か又言ふ　　吉見芳子・25号より

No. 26



発行所・薔薇短歌会

編輯後記



今年は何回となく颱風が現れて人心をかきみだしたが、今年程その予報が当らなかつた事も珍らしいと思ふ。幸ひにはづれた予報が多かつたので結構なことであつた。しかしその原因が飛行機観測にあつた事などが報じられ、十円献金をしてせめて来年はこんなことのない様にしたいと言つてゐるのは貧棒国として佗しい限りだ。私はいつも思ふのだが、こんな時なぜ新聞社が輪番制にでもして自社の飛行機を観測用に提供せないのだらうか、そうすれば「×社の飛行機の観測によれば」などと充分プロパガンダにもなり効果的でもあり大いに喜ばれると思ふが如何。

×

今号は急ピッチで編輯した。それで前にも言つた通り、集つた丈の原稿である。いささか貧弱であるがこの位であつたら毎月出してゆけさうに思ふが一寸むつかしい気もする。

打ち見るところ総体にスランプである。私など病臥中よい歌が出来ただらうと言はれるが全く出来なかつた。これは恥かしい事だ。けれど今の世に歌心がこんこんと湧いて作歌してゐる人が幾人あるだらうか、そんな人はまことに稀だと思ふ。芸術はどんなに苦しんでゆかなければならないものか、それは芸術家のみが知るところである。殊にこう言ふ時代に於ては。しかしその苦しみがその人の価値となり愉しさとなり栄光となるのである。

×

ところで今号で本年も了り、新年号は年内に出す予定になつてゐるからそのつもりで左記の締切日を厳守してほしい。　（村上）

× ×

新年号原稿締切　十一月十五日

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する
○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添へて発行所へ申込の事
○会費は　一ケ月　一〇〇円（三月以上前納）
○長期療養者並に学生にして申出であれば半額とする
○詠　草　二十首以内
　原稿紙使用のこと
○原稿締切　**毎月五日**
○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円
宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

短歌雑誌　**薔　薇**　通巻第二十六号
昭和三十年十一月一日発行
一部　特価七十円（送料八円）
編集兼発行人　西宮市北口町五七　村上新太郎
印刷所　同盟印刷有限会社
西宮市北口町五十七番地
発行所　**薔薇短歌会**
振替大阪三六四〇六番

目次

秋季試験……田中　克己…一
六人集……二
作品……五
村上新太郎・内田八千代・奥道　裕彦
渡辺　郁夫・池田　重司・森　ふさ子
小原　光子・小倉美千代・山崎秀二郎
深見　美亢・野木　しま・松村　峰夫
筑紫　夏子・杉江　宣子・渋谷　末子
森田　常胤・谷　正行・四元みゆき
長谷川抱星・辛島さなみ・前田　愛子
岸間　光子・能勢みどり・豊岡　香葉
平井　一雄・鎌田　總子・松村　衣栄
綿谷　久・前田千栄子・今岡千鶴子
秋冷七人集評……池田　重司…一三
薔薇合評……一四
小倉美千代・前田　愛子・深見　美亢
安藤　佳光・鎌田　総子・村上新太郎
選後寸評(3)……村上新太郎…一七
後記……一八
カット……須田剋太・津高和一

転載歌

室生寺・他

村上新太郎

奥宇陀の深谿をバスにゆられきて緑は足の先まで沁むも
五月若葉深き大和の室生寺に厳しき心消えてゆくなり
こつこつ甃石ふむ女人の沓音もほしいまま大和の古寺に沿ふ
一つ一つ石段のぼればせり上る如くに見えくるかなしき宝塔
菩提の心われは持たねど和みくる大仏より三糎低しと言ふ貞観の塔
もちの花白くゆかしき室生寺の石段のぼる佳き人を率て
くらき金堂出でて仰げばあなはるか青杉群に顕つ夢も見つ
杉葉濃き斎場をゆけばさらさらと埃も立てず三輪の夏来し
御神体の御山はいづこ近づきて雑木の遠をのぞきけるかな
かわらけに神酒をいただきふと思ふあくことのなし素朴なるはよし
夢を見る夢を生れよと川田の大人と共にわれ立つ伎芸天の御前
大元帥明王の水わが飲むや早や渇き知る夏の秋篠
七堂伽藍描くすべなき秋篠に千年の詩唱へて歩む
本堂に入り汗をぬぐへばいにしへの寧楽の匂ひもかなしくなりぬ

（短歌研究・八月号）

薔薇

第二十六号

秋季試験

田中克己

秋だ　窓の外の空は青い
僕は試験問題を提出する
「一夫多妻を批判せよ!!」
サラサラと鉛筆の走る音がする
本当に秋だ　窓硝子の向うではまつ青な空だ
退屈で僕も鉛筆を咬みながら考へる
「一夫多妻はなぜ悪いか」
どうも満点の答案は書けさうもない。

薔薇

No.27

とほく青い空をみつめて幾時か背後の道はかへりてゆけぬ　山田木味・廿六号より

短歌雑誌　薔薇　第二十七号　（昭和三十一年新春号）

本号特価百円　（送料八円）

目　次

冬のこと……田中　克巳…1
バイロン(1)……ハーバート・リイド…2
石川信夫訳
早　春……村上新太郎…4
作　品(1)……5
歌誌渉猟……奥道　裕彦…10
八人集……12
松村衣栄・池田重司・今岡千鶴子
下村敏子・金岡保徳・加古明子
小倉美千代・千葉淑子
六人集（前号）断想……山崎秀二郎…16
薔薇　合評(26)……18
坂上美代子・岸間光子・今出いま子
森ふさ子・西本宗秋・山田木味
渡辺郁夫・村上新太郎
新刊書評……村上新太郎…22
作　品(2)……24
新春歌会予告・会員消息……28
十一月歌会記……渡辺郁夫…29
薔薇会員住所録……30
選後寸評(4)……村上新太郎…32
後記・社告……33

中河與一著
新戀愛論（角川新書）定價百十六円
忽ち重版！
「天の夕顔」「失樂の庭」「悲劇の季節」と人間愛の問題を追窮して來た著者は、ギリシヤ時代から現代のアプレゲールに至るまでの戀愛の實相と理論とを說きあかして、新しい人生の指針を現代に與へた。なほ本書にある東西古今の戀愛に關する澤山の語は最も重寶であり、現代に於ける戀愛論デパートメントとも云ふべきものである。
千代田區富士見町二丁目
角川書店

薔　薇

第二十七号

冬のこと

田中克巳

だんだん寒くなって来た
妻の上にも子どもらの上にも
炬燵の中でゴロゴロのどをならしてゐる猫の上にも
これ以上の寒さが来ないやうに
炭もなく米もなく主人もゐない冬を
妻は忘れてゐないのだ――そして長男をのぞく
子どもたちはそれを知らないのだ
猫とおなじく知らないのだ。

二十八才、ヨーロッパに向けてイギリスを永久的に去つた年）九月二　彼の書いたものの特質があるからであります。（続）

薔薇

No.28

降誕祭の夜なり歩かぬ子に白きフエルトの靴を夫は買ひ来し　下村敏子・廿七号より

本号特価百円　（送料八円）

薔　薇

第二十八号

友に

田中克巳

お前はまだゆめを見てゐるんだつて
もみの木と湖水と金髪の乙女とを見て
一年後には学位論文を書くんだつて
お前の髪にはもう白いのがまじつてゐるね
僕か？　僕ももう老眼だ
それをしばたたいて見るがもう何のゆめも見えない。

目　次

友に……田中　克巳…1
ロオレンスの秘密（2）……石川　克巳…2
九　人　集……6
森ふさ子・能勢みどり・平井一雄
前田千栄子・岸間光子・岡崎幸子
妙見正美・豊岡香葉・渡辺郁夫
歌誌渉猟……奥道裕彦…10
作　品（1）……12
歌壇と商業主義……池田重司…16
書　　評……平井・森・渡辺・岸間…18
作　品（2）……24
八人集評……内田八千代…28
自然の前に……村上新太郎…30
薔薇合評（27）……31
加古明子・鶴田文生・中島昌子
能勢みどり・古川房枝・松村衣栄
村上新太郎
（表紙・カツト）須田剋太

薔薇

No.29

第二回薔薇賞発表

雪ぐもる空に罪あり心にもなきことと言ひて帰りゆくとき　豊隆香葉・廿八号より

薔　薇

第二十九号

卒　業　式

田中克巳

証書をもらつて舌を出した子がゐる
恥かしがりのかわいい子だ
新調の洋服の合はない子がゐる
親や姉たちは見てやらなかつたのかしら
私は詩の批評をするときと同じく
なるべくからい点をつけようと思ひながら
だいぶ甘い点をつけてしまつた

第二十九号　目　次

卒業式……田中　克巳……1
蜻蛉（薔薇賞作品）……内田八千代……2
受賞作品評……4
生方たつゑ・阿部　静枝・磯江　朝子・齊藤　史
初井しづ枝・長沢　美津・前川　緑・松村　衣栄
池田　重司・平井　一雄・内田八千代・村上新太郎
作品（1）……11
歌誌渉猟……奥道　裕彦……15
氷解期（歌）……池田　重司……18
批評の壁……古川　房枝……20
九人集……22
薇薔合評（二十八回）……27
作品（2）……31
後記……35
表紙・扉・カット須田剋太

薔薇

No.30

「近代的餓の胃」などと広告の文読めばひとり可笑しくなりぬ　小倉美千代・廿九号より

発行所・薔薇短歌会

薔　　薇

第三十号

哀　歌

田中克巳

あの曲り角をまがると
おまへの家が見えて来る
小川のよこの木々にかこまれた家だ
もうそこにはゐないのに
おまへが写真でのやうに今日も
しづかにそこで笑つてゐるやうに思ふ
泣いてゐる写真かおこつてゐる写真
死ぬためにはそれらを残すべきだ
僕はおまへのことを考へると
だまされたあとのやうにくやしくなる。

目　次

哀　歌……田中克巳…1
水上バス……川原康子…2
装飾楽句と内的現実……奥道裕彦…4
八人集……6
今岡千鶴子・渡辺郁夫・前田千栄子
森内善一・堀妙子・辛島さなみ・
小原光子・前田愛子
作　品（1）……10
前号九人集批評……渡辺郁夫…14
作　品（2）……16
薔薇合評（29）……20
辛島さなみ・前田愛子・金岡保徳
吉見芳子・山崎秀二郎・奥道裕彦
平井一雄・村上新太郎
薔薇編集委員決定……23
薔薇消息……24
後記・社告……25

薔薇

No.31

発行所・薔薇短歌会

短歌雑誌　薔薇　第三十一号（昭和三十一年九月号）

本号特価一〇〇円（送料八円）

薔　　薇

XXXI

夏

田中克巳

また夏がやつて来た
私は裸になつてペンをとる
しかし裸になつてゐるのは体だけで
ペンの方はなかなか裸になれない
なにかがまとひついてゐるのだ
インテリジェンスーなにそんなものは持ち合せない
日本の夏は家の中だけです。

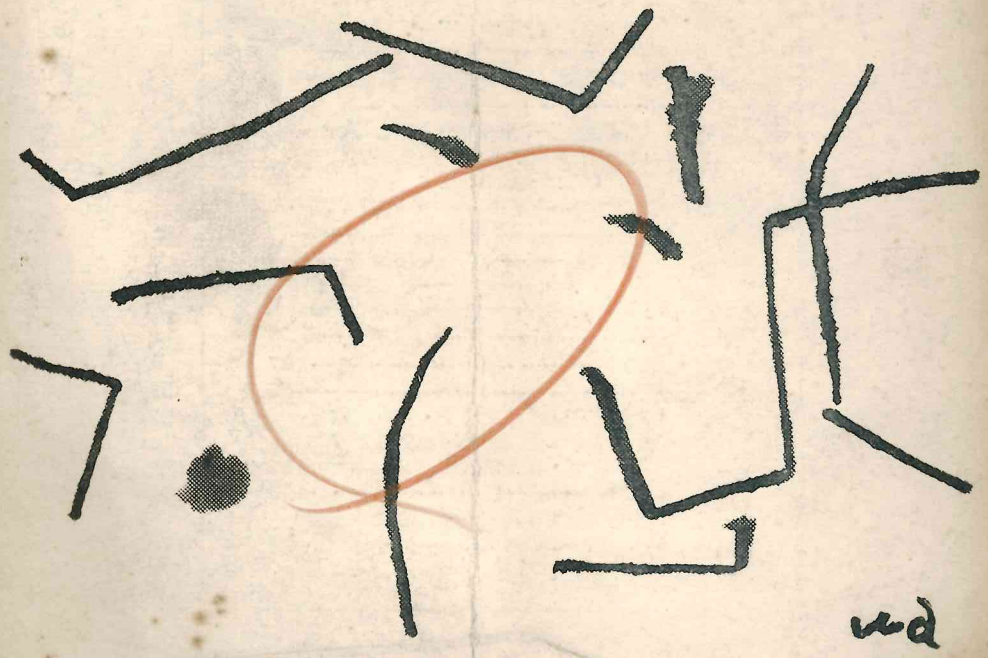
裸

目　　次

夏……田中克巳(扉)
<VIE>について……塚本邦雄…1
八人集……4
内田八千代・岸間光子・川原康子
米山千賀・安藤佳光・岡崎幸子
鎌田総子・古川房枝
現実感検討（1）……奥道裕彦…8
作　品（1）……11
甘い疾走（水上バス読後）……山崎秀二郎…15
批評以前のことば（八人集）……古川房枝…17
作　品（2）……19
薔薇合評（第30回）……23
坂上美代子・松村峰夫・小倉美千代
菊池彩子・渡辺郁夫・鎌田総子
安藤佳光・山田木味・村上新太郎
編集後記……村上新太郎…27

（表紙・カット）津高和一

薔薇



No.32

発行所・薔薇短歌会

短歌雑誌　薔薇　第三十二号（昭和三十一年十一月号）

本号特価一〇〇円（送料八円）

薔　薇

XXXII

ラジオに

田中克巳

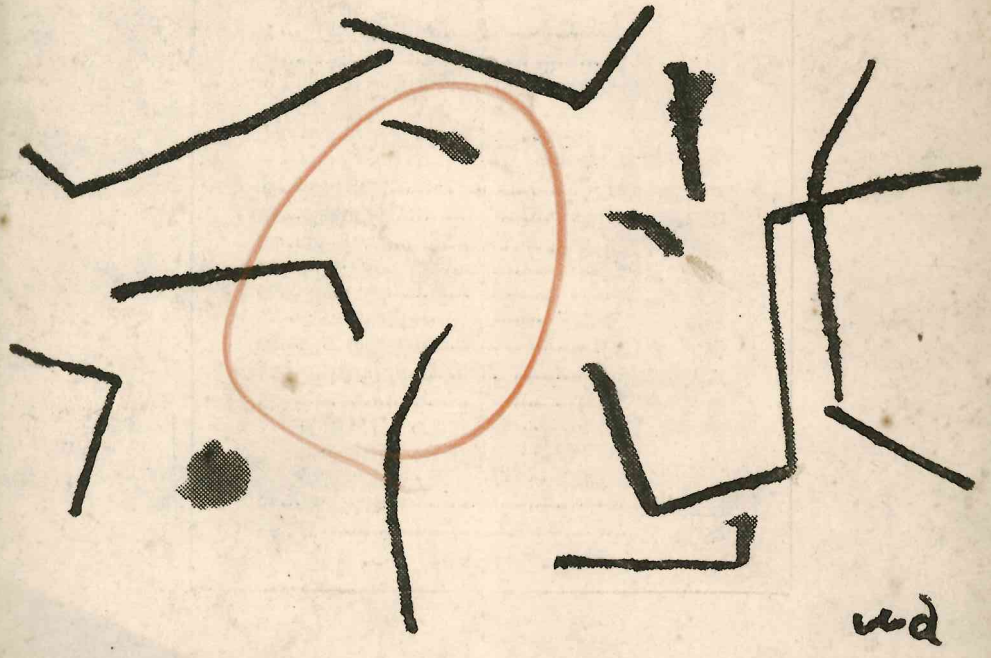
僕はもう眠いのだ
さうかき立てないでくれたまへ
僕の心臓のまはりには脂肪がつき
ちよつとした刺戟でも急に動悸がするのだ
おお　なつかしいうたよ　なつかしい風景よ
そしてなつかしい恋人どもよ　眠れば
それら全部に会へるのだ　さう大きな音で
かき立てないでくれたまへ

目　次

ラジオに……田中克巳(扉)
赤きセスナ……下村敏子…2
現実観について(2)……奥道裕彦…4
八人集……7
前田千栄子・金岡保徳・岡田とし子
山崎秀二郎・梅村とみ子・松本成美
林田くに江・池田重司
批評以前の言葉……古川匠枝…10
書　感……12
「微　粒」……平井　一雄
「　蟲　」……内田八千代
「藍の紋」……松村　衣栄
薔薇歌会記……渡辺郁夫…16,28
作　品(1)……17
薔薇合評(31)……22
岡崎幸子・今出いま子・西本宗秋
小原光子・豊岡香葉・能勢みどり
松村衣栄・村上新太郎
作　品(2)……25
松村衣栄選・内田八千代選
編集後記……村上新太郎…29

(表紙・カット)　津高和一

薔薇



No.33

発行所・薔薇短歌会

短歌雑誌　薔薇　第三十三号（昭和三十二年新春号）

本号特価一〇〇円（送料八円）

薔　　薇

XXXIII

願　ひ

田中克巳

僕はまた北京へゆきたい
エンジュの落葉する通りで
敗けた国の市民としてもう一度
勝つた国の市民のかちどきを聞きたい
このごろ僕はまたちよつと高慢になつてゐるのだ
しかしこの願ひはおそらくかなへられまい
僕は高慢ちきのまま死なねばならぬか　噫!!

目　　次

願　ひ……田中克巳…1
作　品(1)……2
松本康子・高松洋子・岸間光子
森愛知子・山崎秀二郎・松村峯夫
今岡千鶴子・池田重司・前田千栄子
下村敏子
時・空を超えて……石川信夫…9
Chansonについて……塚本邦雄…12
北海道と万葉集……阪口　保…15
作　品(2)……村上新太郎他…19
文明滅亡論……奥道裕彦…26
ひるがえる旗の下……山崎秀二郎…28
作　品(3)……西島政子他…30
八人集短評……内田八千代…33
合　評(32回)……35
前田千栄子・辛島さなみ・下村敏子
今岡千鶴子・千葉淑子・鎌田総子
奥道裕彦・内田八千代・村上新太郎
編集後記……村上新太郎…39
歌会報……11, 38

(表紙・カット) 津高和一

薔薇

No.36

発行所・薔薇短歌会

編輯後記

村上新太郎

☆「礎石といふものはふしぎなものだ。人間も建築も有限なるものすべてが滅びて、これ以上滅びるものがなくなつた最後に、無限のやうな顔をして土中に埋れてゐる。眺めてゐると、無限なるものとはまことに淋しいものだが、また淋しさの極みの一種の安心感を与へる」亀井勝一郎氏の飛鳥路の一節である。自分が今作つている歌に自信を持てるかどうかを考えてみると否と答えざるを得ないのではないか、しかしそれが何等かの意味で無限へ志向しているところに芸術作品としての重大性と制作の意味がある。一時の流行はすぐに亡びる。三年五年、また十年二十年の経過の後にどれほどの作品価置があるかを考えるとき、淋しいか知れないが無限への志向による安定感がある。

☆今年の夏歌会を鞍馬でやろうと思つて鎌田さんが色々手をつくしてくれたが、企画が少し遅かつたため先約があつてどうしようもない結果となつた。来年を期すことにしよう。

☆今月は石井勉次郎君が会津八一に関する随筆を書いてくれた。故人のおもかげを彷彿さす背骨ある一文である。尚この文章は近く随筆集となつて上梓される予定である。

☆田中克巳氏からも久々に作品を頂いた。共に感謝します。

☆しかし今バラ全体は少しダレているようである、世間一般がダレているからこれはあたり前だと云つてよい筈はない。私は今日バラの現状について世間体のためウソを云いたくない。熱あるものは冷める時もあるし、躍動心の反面には嫌気がさすこともある。そこに大きな心理的な危機がある代りにそれが深奥であればあるだけ反動も大きい筈である。することもしないでこの惰性に流されているほど怖しい寂しいことはない。バラの自由性は安逸な楽天ではない。私のこの貧弱な考えをこの上補足し援助賜わらんことを。

☆今月は文章が多くエッセイ集は次号へ廻したから諒とせられたい。しかしよい文章はどしどし送つて下さい。

☆尚会費の集りが非常によろしくありませんから、この際出来るだけ多く集まる様御尽力願いたい。次号原稿締切は九月十日とします

× × ×

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する

○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添えて発行所へ申込の事

○会費は一ケ月一〇〇円（三月以上前納）

○長期療養者並学生にして申出であれば半額とする

○詠草（二十首）原稿紙使用のこと

原稿締切　毎月五日

○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円

宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

短歌雑誌　薔薇　通巻第三十六号
昭和三十二年九月一日発行
一部特価一〇〇円
編集兼発行人　西宮市北口町五七　村上新太郎
印刷所　大阪広告株式会社印刷部
発行所　西宮市北口町五十七番地　薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

薔　　薇

XXXVI

バラと女

田中克巳

早咲きのバラを天王寺公園で見て
おそ咲きのバラを日比谷公園で見てゐる
あの子は失恋したさうな
この子は早産したさうな
バラと女はいづこも同じで
私だけが見聞きに疲れてゐる。

目　　次

バラと女……田中克巳(扉)

作　品(1)……2

今出いま子・岡崎 幸子・松村 峯夫
今岡千鶴子・大原 操子・前田 愛子
古川房枝

門弟たること……石井勉次郎…5

「生きる」ということ……平井一雄…8

作　品(2)……11

前号批評(作品その1)……松村衣栄…18

薔薇合評(35回)……21

古川房枝・渡辺　郁夫・山田木味
平井一雄・豊岡香葉・村上新太郎

編集後記……村上新太郎…26

表　紙……須田克太

カット……津高和一

薔薇

No.37

発行所・薔薇短歌会

本現代油絵巡回展の六人の内の一人として選ばれ現在アメリカで展観されております」昨年神戸そごうでの個展パンフレットの一節を一寸紹介しておく。

× ×

今年は薔薇としてやつてゆかねばならん事が山積している様な気がする。曰く小生の歌集、会員諸氏の歌集の刊行、夏期歌会の催し会員増加運動、もう一つ重要な事は雑誌の確実な隔月発行等々である。先づ小生の歌集「李愁」は必ず上梓することを誓う。次に夏期歌会は八月頃一泊の予定で開くこと、第三は雑誌の発行を確実にするための措置を講ずること、私はこれらのことを思うにつけ、今年は須く「不言実行」で行かねばならないと思う。どうかこの私の悲願達成のため又諸君の薔薇のため絶大の支援と発奮をお願いする。

× ×

これは会員増加運動にも関連するが、初心者並に希望者の選歌制を復活することにした選者は従来の松村衣栄、内田八千代両氏であるが、更に兵庫地区のため能勢みどり氏を加えることにした。兵庫地区主に篠山方面の会員は目下ぽつぽつ能勢氏の努力により集りつつあり、よろこばしいことである。尚松村、内田逸も盛んにしたいから諸氏の協力を待ちたい。次に北大阪地区では安藤佳光、渡辺郁夫両氏が今年から歌会を始めることになり、その第一回を一月十八日（土）安藤氏宅にて開催する。因に今後選歌希望者は各々左記選者へ原稿直送のこと（締切は一般原稿と同じ）

× ×

尚最後に御願することがある、それは前述した通り、雑誌確定月発行と云うことになれば原稿は出来るだけ早く締切日までに送つてもらう事以外にはない。お互に自分の作品が載つていない雑誌は何と云つても魅力が淡いのだから遅れぬ様、出来ない時は少数歌でも送ること、会費は前金切れにならない様送つてもらうこと、渡船が遅参者を待つ様なシレツたさを早くなくしたいと思う。

次号締切　二月二十日（厳守）

従来の一般詠草宛先……発行所
初心者並に選歌希望者詠草宛先

豊中市岡町北通二の七　松村衣栄
吹田市北泉町三一八二　内田八千代
兵庫県多紀郡篠山局区内　能勢みどり

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する
○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添えて発行所へ申込の事
○会費は一ケ月一〇〇円（三月以上前納）
○長期療養者並学生にして申出であれば半額とする
○詠草（二十首）原稿紙使用のこと
原稿締切　毎月五日
○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円
宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

短歌雑誌　薔薇　通巻第三十七号
昭和三十三年一月二十日発行
一部　特価　八〇円
編集兼発行人　西宮市北口町五七　村上新太郎
印刷所　大阪広告株式会社印刷部
発行所　西宮市北口町五十七番地　薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

薔　　薇

XXXⅦ

秋　山

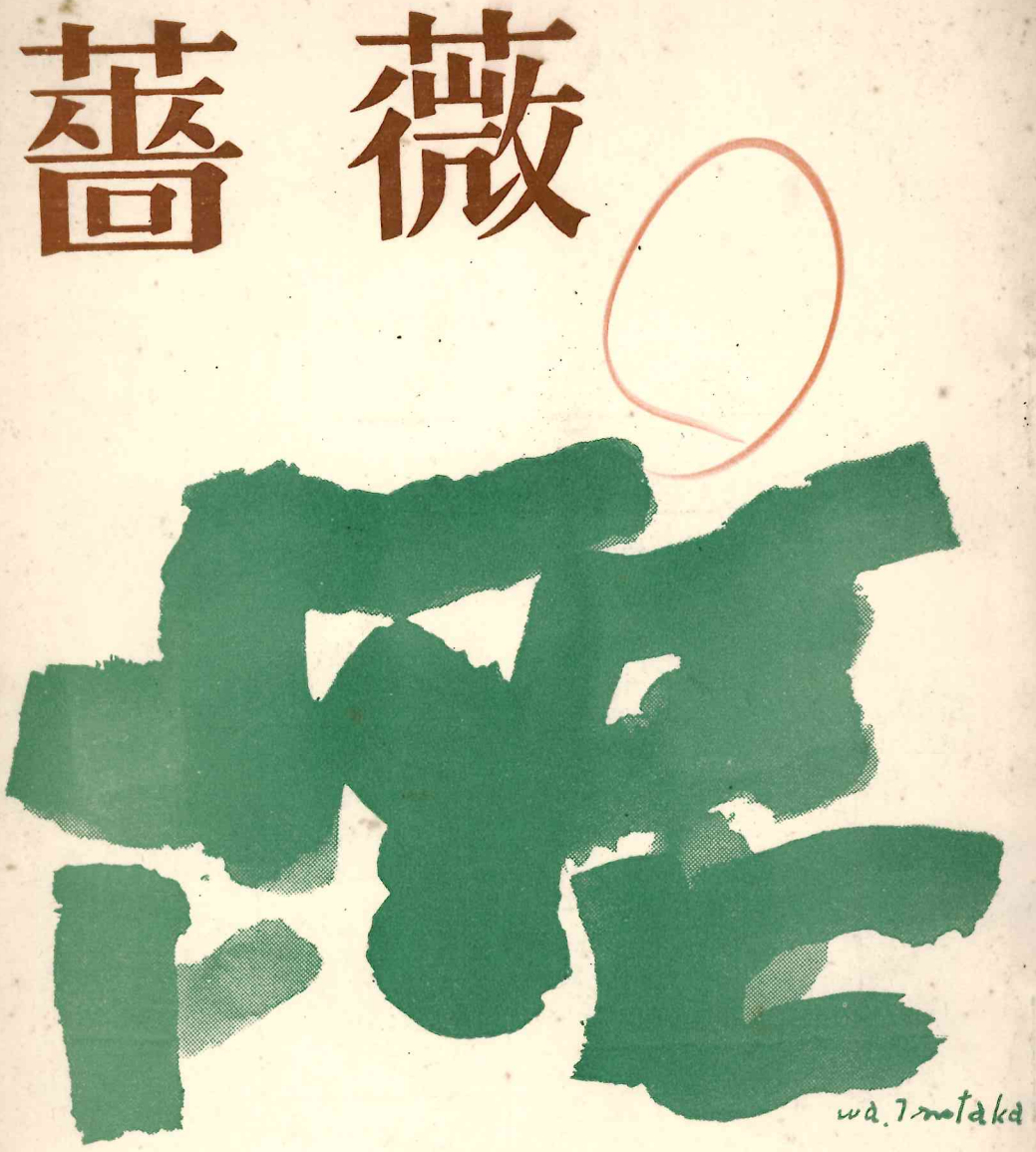
田中克巳

僕はひとりで登つて行かう
いろんな花が最後を飾つているところへ
僕自身ももうあと何年か
下りてからさう思つて酒を酌まう
酒をのめばまはりが明るくなり
何もかも暖く親しげで
僕はもうひとりではなくなるのだ
摘んだ花もそのとき生きいきするのだ。

目　　次

（表紙・カット）……津高和一
秋　山……田中克巳……1
作　品（その1）……2
前号作品（1）批評……西本宗秋…10
作　品（その2）……12
前田 玲子・松本 康子・山崎秀二郎
柴田 幾子・田中 節子・岡崎 幸子
山田 木珠・安藤 佳光
点　描……18
古川 房技・渡辺 郊夫・紅野 泰治
塩谷貞一郎・小原 宗鶴
薔薇合評（36）……21
内田八千代・林田くに江・妙見正美
岡崎 幸子・西本 宗秋・平井 一雄
村上新太郎
編集後記……村上新太郎…25

薔薇



No.38

発行所・薔薇短歌会

編集後記

村上新太郎

「徒然なる儘に、日ぐらし、硯に向ひて、心に映り行くよしなしごとを、そこはかと無く書きつくれば、怪しうこそ物狂ほしけれ」と云う徒然草の書き出しはいつ読んでも不易の新しさをおぼえる、気持のよいリズミカルな文章である。明治大正の歌人も「つれづれなるままに詠み出でし歌」と云う風によく使つた。つれづれとは実におもむきの深い豊かな言葉である。この豊かさはいつの世にも忘れたくはない、まして歌を詠むほどのものは人がたくさんあつた。この言葉ここらでもう一度復誦してみるのも無駄ではなかろうか今年もまだ四分の三の日数が残つていると思えば。

×

今月は少し遅れたが田中さんから賜つた詩以外は全部会員の筆で纒めた。バラとしては珍しく皆が書き出して来たから、これはよい傾向だと喜んでいる。

×

能勢さんが去年の出詠表を送つて来た。バラにこう云う統計の様なものを載せるのは始めてだが、誰かなお創刊以来のものを作つてみる人はなかろうか。今年ももう四月、年賀状に、今年こそガンバリますと云つて来た

×

先号の誤植で目に余つたものを訂正します古川さんの「描くということ」の文章の終りに近い処で「…天地の間に炸烈することなく強く」となつていたのを「こよなく」とする合評評者名が岡崎さんと林田さんとが入れ替つていたこと等である。その他にも少々あつてすまなく思つているが、これは印刷所からゲラ刷りが出るのが切羽つまつた日になるから校正時間がないためである。今後改良したい。諸氏も原稿を早く送つて下さればこの心配は尠なくなる。

×

五月廿五日大阪春の短歌祭がある。場所は毎日新聞社、関西短歌雑誌連盟と近畿歌人クラブ共催である。五月初旬に平井君の世話で清荒神の藤沢寮でツツジ観賞薔薇五月歌会をする。

×

松村、内田選歌は原稿が揃わなかつたから次号より実現する。能勢選は柏原療養所の分を含めて掲載した。

ローラーチエイン
コンベヤーチエイン
カードチエイン
★
東洋チエイン株式会社
大阪市 大淀区本庄中通電停前
電話 豊崎 (37) 0893・0894番

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する
○本会は村上新太郎が主宰す
○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添えて発行所へ申込の事
○会費は一ケ月一〇〇円（三月以上前納）
○長期療養者並学生にして申出であれば半額とする
○詠草（二十首）原稿紙使用のこと
原稿締切　毎月五日
○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円
宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

西宮市北口町五十七番地
発行所　薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

薔　　薇

XXX VⅢ

同　窓　会

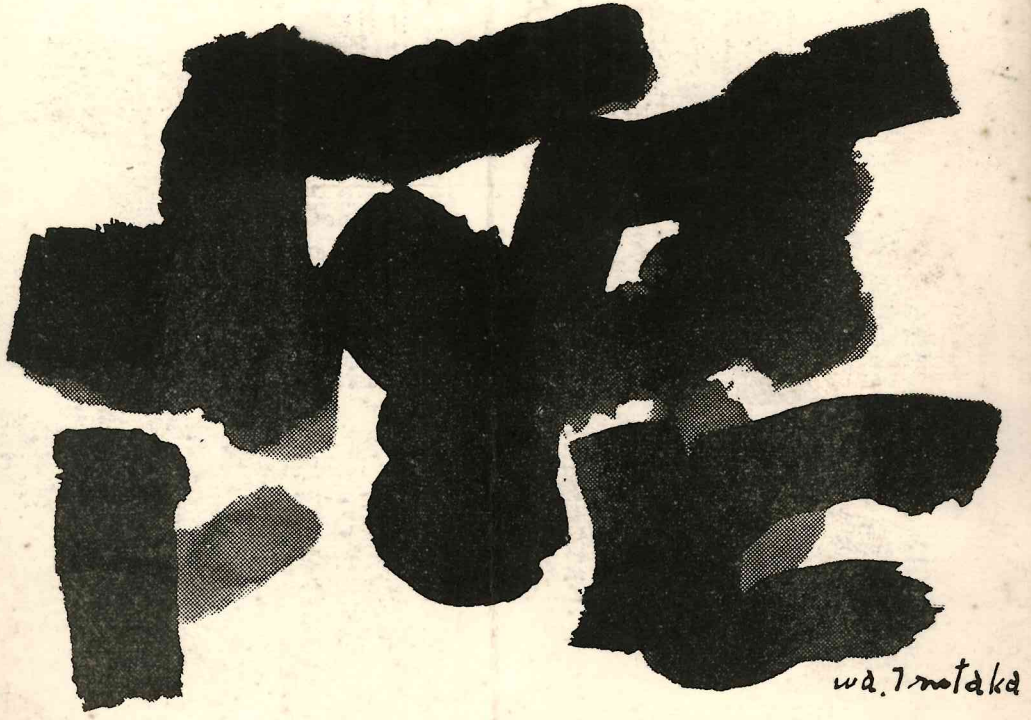
田　中　克　巳

みんなやりそこなつた人生
あすこでは頭つてゐる禿頭
ここでは女中をくどく半白髪
僕は酔ふと笑ひ上戸で
笑ひがとまらない―こんなではなかつたのに
帰りなんいざ、笑ひながら僕は靴をはく
玄関に盆栽の梅の花、僕は笑ひをやめてかぐ
そしてはつと正気になつた

目　　次

同窓会……田中克己（扉）
作　品（I）……2
プラグマチズム歌人批判……奥道 裕彦…9
生活の体験と叡知を！……平井 一雄…11
作　品（II）……14
芹生 典子・森　昌 子・大原 操子
吉見 芳子・西島 政子・岡田とし子
長尾 吉子・塩谷貞一郎・西本 宗秋
渡辺 郁夫
私の立場より……岸間 光子…19
作 品（III）……21
薔薇合評（37回）……23
奥道 裕彦・内田八千代・鎌田 総子
辛島さなみ・鶴田文生・村上新太郎
編集後記……村上新太郎…26
表紙・カット……津高和一

薔薇



No.39

発行所・薔薇短歌会

短歌雑誌　薔薇　第三十九号　（昭和三十三年七月十五日発行）

本号特価八〇円　（送料八円）

編輯後記

村上新太郎

近頃色んなジャンルの中に漫画がよく取扱われている。その中に近代芸術が忘れ去ろうとしているペーソスがあるのを感じる。漫画の漫の字は浪漫の漫の字である。こんなことは取るに足りないコヂつけか知らないが、一寸思えばそうでないところもありそうである漫画はアイロニィであり逆説であり、クリティックである。ドラマは全部喜劇だといつても過言でない。もつと広義にノーベルも。

× ×

さて今日この頃歌人で浪漫などいう人もなくなつた。その中で私などあたかも古い起語文を振り廻すように浪漫のことを唱えているよい加減にしたらどうだといわれていそうである。そんなことをする間にもつと他のことをやつたらどうだとなる。併し私はそうなると一層極めたい気になつている。多力の人はこんなことは短かい期間にやつてのけて、すぐ新しいものに飛びついて行くだろうが私は無力だからこの大きな問題はそうたやすくつくせないし、死ぬ迄やつても至らないかも知れないと思つている。まあ今日はこれ位にして大方の冷笑を受けておくこととする。

× ×

今月は雑誌が遅れてすまなく思つているが追々事務的なことを整備にかかつているから次号から早くなるだろうと思う。が第一会費はなるべく早い目に払込んで頂きたくお願いする。

× ×

松村衣栄さんの第一歌集「青衣像」が出た久しい間著者も苦労されたが、出来上つて見ると実に立派だ。前川君の序文も中々親切で友情の厚いものだ。どうか会員諸君は著者に申込むか、当発行所に多数申込んで頂きたい出版記念会は八月三日一時より本町・国際見本市会館で行われるる

× ×

別記のように今夏は丹波篠山で薔薇歌会をすることにした。能勢さんが非常に力を入れてくれたので盛会になると思うが皆さん誘い合せて多数参加してほしい（紙上に詳しく書いたから改めて案内状は出さない。そのつもりで）尚次号原稿締切は八月十五日とします

ローラーチエイン
コンベヤーチエイン
カードチエイン
★
東洋チエイン株式会社
大阪市大淀区本庄中通電停前
電話 豊崎 (37) 0893・0894番

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する
○本会は村上新太郎が主宰す
○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添えて発行所へ申込の事
○会費は一ケ月一〇〇円（三月以上納）
○長期療養者並学生にして申出であれば半額とする
○詠草（三十首）原稿紙使用のこと
原稿締切　毎月五日
○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円
宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

西宮市北口町五十七番地
発行所　薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

・目　次・

向ふ側……田中克巳…1
作　品（その一）……2
ある夜のシンポジウム（第一回）……6
作　品（その二）……11
能勢みどり・今岡千鶴子
四元みゆき・大倉はる子
山田　木味・渡辺　郁夫
大会予告……14
作　品（その三）……15
―選者―　松村衣栄・内田八千代
能勢みどり
薔薇合評（第三十八回）……19
編輯後記……村上新太郎……22
・表紙・……津高和一

松村衣栄著　女人短歌叢書（43）

歌集　青衣像　定価　二八〇円　〒　著者負担

松村衣栄さんの作品を仔細に見て私は瞠目した。外側から見ていた松村さんと、内側から見る松村さんとでは、全く別人の観があつたからだ。内側とは作品の謂だが、あり余る豊かな抒情は、その得難い理性によつて見事に統制せられ、優雅とも繊細ともいい得る、一種独特の高い調べをなしている。

（前川佐美雄）

申込所　豊中市岡町北二の七　松村衣栄

〃　西宮市北口町五七　薔薇短歌会

薔　薇

XXXIX

向ふ側

田中克巳

あつちはとても楽しさうだ
僕を一心に呼んでゐるやうにも思ふ
しかし僕は生命保険をかけてゐないし
退職手当も大してもらへさうもない
このくりくりした目の子供たちが困るだらう
それにこつち側にまだ恋人もゐるのだ
あつち側の戦友よ親類よ教へ子よ
もすこししたら行くよ席をとつといてくれ。

薔薇

青衣像批評号

No.40

発行所・薔薇短歌会

・次　目・

誕生日……田中克己……1
作品（その一）……2
合評（第三十九回）……6
作品（その二）……10
青衣像批評集……14
長沢美津・前登志夫
平中歳子・山田弘通
古川房枝・内田八千代
村上新太郎
青衣像出版紀念会記……鎌田総子……24
編輯後記……27
・表紙・……津高和一

松村衣栄著　女人短歌叢書（43）

歌集　青衣像　定価　二八〇円　〒　著者負担

松村衣栄さんの作品を仔細に見て私は瞠目した。外側から見ていた松村さんと、内側から見る松村さんとでは、全く別人の観があつたからだ。内側とは作品の謂だが、あり余る豊かな抒情は、その得難い理性によつて見事に統制せられ、優雅とも繊細ともいい得る、一種独特の高い調べをなしている。

（前川佐美雄）

申込所　豊中市岡町北二の七　松村衣栄

〃　西宮市北口町五七　薔薇短歌会

薔　薇

XXXX

誕生日

田中克己

四十七回目を迎へた
だいぶ人間が落ちついたとほめられたあと
三人の娘としづかに夕食をする
夜はもう誰も来ない―詩は
これも来ないので詰め将棋を考へる
さびしいながらあたりまへの日である。

（八月三十一日）

◇編輯後記◇

村上新太郎

樺太犬二匹が生き残つていたと云う知らせしかも丸々と太つていたとのこと。生の充実を感じる。私は近頃何よりの朗報に思う。物云わぬ毛物が示すこの現実のメタファーは限りなく強い。この無言の暗示を思うとき、今の人間なり作品が少し饒舌にすぎ説明が多すぎるように思う。人間に於ける寡黙、作品に於ける余白――が示す充実が忘れられているのではなかろうか、私はこの二匹の犬の生存か与えた力は、人工科学万能に目を奪われている人類に、久しぶりにプリミティヴな自然の力の何物かをよみがえらせてくれたことだと思う。ここに実朝の名歌一首を記して、改めて新年お芽出とうを言いたい。

物言はぬ四方（よも）のけだものすらだにもあはれなるかなや親の子を思ふ

×

今月から表紙を須田剋太画伯の厚意によつて飾られたことを喜びたい。その上津高和一画伯と共に近作の挿絵と文章を賜わつた事も併せて御礼申したい。津高氏は今年サンパウロで展かれるビエンナーレに日本から五人の作品の出品者の一人として選ばれ目下力作中とのこと、成功を祈りたい。

×

薔薇月刊を望む声が多いので、出来るだけ努力してみたいと思つているが、これは作品と会費を期日までに提出してもらえば出来ることだから、どうか諸君もくいしばつて協力してほしい。それで大体締切は通知してあるか、この雑誌を受取られたら時をおかず原稿（会費共）を提出して下さい。

×

「短歌研究」「短歌」の年鑑で薔薇のことが色々とり揚げられている。このことはそれだけ我々の仕事が一般に知られて来たことを示すものだ。何を云うにも我々のこれからの努力か物を云うのであるから実行してゆかねばならない。それには先づ人一倍の希望を明日に持つことだ。今年は大いに外部の方に接触してゆきたいと思う。わが仏尊しでおさまつていては進歩がない。それで諸君も大いに他の人の作品を見てゆかれることを望みたい今迄余り薔薇内部一辺倒のかたむきの人もあつたから一寸言つておく。

薔薇短歌会略規

○本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する
○本会は村上新太郎が主宰す
○入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添えて発行所へ申込の事
○会費は一ケ月一〇〇円（三月以上前納）
○長期療養者並学生にして申出であれば半額とする
○詠草（二十首）原稿紙使用のこと
原稿締切　次号締切二月十五日
○添削・一回十首以内　添削料一〇〇円
宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

発行所　西宮市北口町五十七番地
薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

ローラーチエイン
コンベヤーチエイン
カードチエイン
★
東洋チエイン株式会社
大阪市 大淀区本庄中通電停前
電話 豊崎 (37) 0893・0894番

・目　次・

小春日和……田中克巳…1
作　品（その一）……2
新しい和歌の出現……須田剋太…11
透明人間……津高和一…6
泣菫を偲ぶ会記……村上新太郎…7
意識の問題について……奥道裕彦…8
作　品（その二）……12
合　評（第四〇回）……15
出詠表……山崎秀二郎…19
編輯後記……22
・表紙・……カット…須田剋太
カット…津高和一

薔　薇

XXXXI

小春日利

田中克巳

愛情はひつくりかへせば
それだけの憎しみにかはるのよ
妻はおれをにらみつけてゐる
この生活に疲れた女も
怒るとすこしは見られる顔になるな
さう思ひながらおれもにらみつけてゐる
そとは小春日利である。

薔薇

No.42

発行所・薔薇短歌会

短歌雑誌　薔薇　第四十二号（昭和三十四年二月二十日発行第三種郵便物認可）

薔　薇

XXXXII

病む妻

田中克巳

二十何年いつしよにくらして来て
おまへをボロボロにしてしまつた
僕の中の「詩」がおまへを悩まし
僕の外の貧乏がおまへをこまらせた
おまへは泣きも笑ひもしなくなり
高い血圧をもつてねてゐる
頭痛と赤い頬をもつてねてゐる

・目　次・

病む妻……田中克巳…1
冬の旅……村上新太郎…2
思い浮ぶまま……内田八千代…5
孤　影……平井一雄…6
聖母像……下村敏子…8
作　品（その1）……10
危機に飢えている……山崎秀二郎…13
作　品（その2）……15
薔薇合評（第41回）……18
安藤佳光・林田美亢・辛島さなみ
山崎秀二郎・山田木味・渡辺郁夫
村上新太郎
編集後記……村上新太郎…22
（表紙・カット）……須田剋太

短歌雑誌　薔薇　第四十三号　（昭和三十四年四月二十日発行）　本号特価一〇〇円（送料八円）

編集後記

村上新太郎

四十一号四十二号と続いて出したので四十三号がまだ着かぬと云つて来る人がしきりにあつたが、原稿の集りが悪くて遅れてしまつた月刊にしようとしたがやはり当分むつかしい、これは永い間の習慣がたたつている勢か当分は隔月刊を確実にする方が先決で実現可能な状態である。

月刊で出している他の雑誌の方が多いのだから月刊で出せない方が異状であるとも云えるが今のところあまりむりをして歌の質が荒れてしまつては却つてバラを毒することにもなる。低姿勢でよいからこの際ミツチリ心を落ちつけて、スローエンド、ステツデイにゆくことだ。華やかな新人を望む事も必要だが大ていの新人は流行を追うだけの人が多い。生れるべくして生れる真の新人はそうザラにあるわけではない。又旧人(言葉はまずいが)にしても単なる惰性でやつている人も多い。新人から流行性をとり、旧人から惰性を除くことが今一番必要な場合ではなかろうか、みんな一度振出しに戻り設計の建て直しをやることが肝要である。

今月は総じて歌の出来が悪かつた。よい歌が多いと私も元気が出るのだが、よほど辛抱して今月の編集をした。しかしこう云う時も長い間にはかなりある。他の結社にもそれはあり。それが惰性となりあたり前になつているのがあり、主宰者が認識していないのが多いように見受ける。単に出泳者の数をたのみそれを盛大だと思つている人もある。バラは数も尠いしその点ではまだたのみにならないこの上質が落ちては何のとりえがあらうか、しかしこの状態を認識している人はある。真にバラのことを心配していてくれる人が幾人かある。私にはそれがいまハツキリ判つて来た。

どうも今月は泣き事のみを書いてしまつたしかしこう云う白書も時には書いておく心要がある。バラは営業誌ではないのだから——

次号〆切五月十日とします

ローラーチエイン
コンベヤーチエイン
カードチエイン
★
東洋チエイン株式会社
大阪市大淀区本庄中通電停前
電話豊崎(37)〇八九三・〇八九四番

薔薇短歌会略規

〇本会は短歌を中心とする文芸結社で隔月雑誌「薔薇」を刊行し会員に頒布する
〇本会は村上新太郎が主宰す
〇入会希望者は住所氏名と簡単な経歴を記し会費を添えて発行所へ申込の事
〇会費は一ケ月一〇〇円（三月以上納）
〇長期療養者並学生にして申出であれば半額とする
〇詠草（二十首）原稿紙使用のこと
原稿締切　次号締切五月十日
〇添削・一回十首以内　添削料一〇〇円
宛名明記切手貼附の返送封筒同封の事

西宮市北口町五十七番地
発行所　薔薇短歌会
振替大阪三六四〇六番

薔　　薇

XXXX Ⅲ

家　系

田　中　克　巳

鏡を見ないがいつのまにか
父の顔をもつてしまつたにちがひない
祖父の体をもつてしまつたにちがひない
―電車で他人に席をゆづられるやうになつた
そして私そつくりの声をした
かつての私がいま次の間で
法律の教科書をよんでゐる

・目　次・

家　系……田中克巳…1
黒　潮……松村衣栄…2
早　春……渡辺郁夫…4
嫁ぐ娘……前田愛子…4
吾亦紅……岸田澄子…5
二　月……鎌田総子…6
プロメテウス的精神と伝統…奥道裕彦…7
作品（1）……9
時局短歌と自我……平井一雄…13
作品（2）……15
薔薇合評……19
吉見芳子・鎌田総子・大原操子
今岡千鶴子・能勢みどり・村上新太郎
編集後記……村上新太郎…22
（表紙・カット）……須田剋太